学校通信 いず美
http://www.ooizumi-e-e.nerima-tky.ed.jp
練馬区立大泉東小学校
平成２９年１０月２日

『「丁寧さ」が子供を変えるキーワード』

校長　岡部　良美

なぜ、子供たちは未来に向かって生き続けているのでしょうか。それは、未来という時間・空間を自分たちで創造し、自分たちが責任を負うべく時代や社会を形成するためではないでしょうか。

輝かしい未来を創る子供たちが人間的に成長するためには、「一所懸命」、「真面目に(真剣に)」、「誠実に」、そして、「謙虚に」がその重要な要因であることには間違いがありません。それらを横断的な視点から振り返ってみますと、そこには**「丁寧さ」**が必要であることに気付きます。

「丁寧」とは、注意深く、心が行き届くことであり、手厚く礼儀正しいことでもあります。「丁寧な応対」「丁寧な言葉遣い」という言い方をしますが、**「丁寧」**は、しなやかで、慮る（おもんばかる）心があるからこそできるものです。**『丁寧に、人にかかわる』**。この言葉を大切にしている人、大切にした人は、人間として大成した人であると思います。大成した人とは、地位や名誉があるということではありません。社会（世の中）は、**「丁寧さ」**を心の奥底で感じ、「人となり」をみているものであると思います。

大東小では、「丁寧に、人にかかわる」ためのスタートとして、まずは、「あいさつ」ができるように指導を進めてきました。「あいさつ、返事、後始末」これが丁寧にできる子は、社会で受け入れられる人になっていくと思います。社会で受け入れられるとは、人間関係づくりができるということです。学校生活で考えると、友達づくり、仲間づくりができるということです。

昨今、社会全体として、聞くに堪えない言葉を発している人を頻繁に見かけます。例えば命を軽視した言葉、目上の人を侮辱した言葉などです。最近では、中指を立てるなど、国際化の中で生きていく日本人にとって、許されないしぐさや行動も見られます。これは、大人だけではなく、小学生にも見られます。本校の子供たちも例外ではありません。その言葉のもつ意味、浴びせられた相手がどんなに心を痛めるかを考えることなく、おしゃべり感覚で、躊躇することなく、無意識に使われています。すでに、保護者の方もお気付きのことと思います。これは、人と人とが支えあって生きている人類にとって、危機的な状況です。これでは**「丁寧さ」**は期待できず、人間関係づくりは程遠いと感じます。躾の第一義的責任は、保護者の方であり家庭教育にあります。それを基盤に、学校でも同じスタンスで子供たちを正しい方向に導いていくことができます。家庭教育と学校教育のどちらも衰退してはならないのです。

大東小の子供たちには、**「丁寧さ」**を身に付けていってほしいと願っています。未来を担う子供たちです。未来を創造する子供たちには、リーダーシップを発揮して、自分に誇れる、自分も輝く、人となりを示せる、そういう生き方をしていってほしいです。日々の生活の中で、**「丁寧さ」**を私たち大人自身が再確認するとともに、自分の子供や周りの子供たちについて、再確認、再検証していきましょう。

１０月１４日（土）の運動会、参観よろしくお願いいたします。

○【校舎等全面改築工事の情報】

新体育館はいよいよ内装工事に入りました。新南校舎（教室棟）は１階部分の鉄筋工事は終わり、２階部分の工事が始まっています。階段部分の工事も始まっています。

○【主な給食使用食材の産地についてのお知らせ　９月】

お米（青森県産　まっしぐら）牛乳（北海道、青森、岩手、秋田、宮城、群馬、千葉）大根（北海道）
小松菜（埼玉）玉ねぎ（北海道）にんじん（北海道）じゃがいも（練馬、北海道）キャベツ（練馬）
にんにく（青森、練馬）ごぼう（宮崎）梨（茨城）豚肉（青森）鶏肉（岩手）鮭・さんま（北海道）